

令和7年第1回議会定例会（施政方針・当初予算）

令和7年度の予算案及び諸議案のご審議をお願いするにあたり、新年度の市政運営に臨む所信の一端を述べさせていただきます。

今年は巳年です。へビは古くから「再生」や「繁栄」の象徴とされています。我が市も千葉ニュータウンの入居開始以来、約半世紀が過ぎようとしており、大きな転換期だと考えています。

このような中、私は、白井をもっと豊かにし、市民一人ひとりが自分なりに生活の豊かさが実感できるまちを築き、魅力あふれる白井を次世代に残していくことを目指しております。

このためには、行政だけがまちづくりをするのではなく、市民や市民団体、企業、教育機関といった多様な主体が連携・協働し、「オール白井」でまちづくりを進めていくことが大変重要であると考えております。

市を取り巻く環境は、少子高齢化の進展や人口減少が進む中にはありますが、成田空港の機能拡張や北千葉道路の整備など明るい未来もあります。少子化対策や安心して子育てできる環境の整備、人生100年時代に対応した健康・生きがいづくり、農業・商業・工業の市内産業の持続的発展を進めるとともに、自然災害などに強いという本市の特色や、緑豊かで都市に近く、交通の便が良いという魅力を最大限に活用した企業誘致を進め、雇用の創出や地域経済の活性化を図り、人口減少に歯止めをかけたいと考えております。

また、財源を増やすことで、市民サービスの拡充も進めていきたいと考えています。

本年は、第5次総合計画後期基本計画の最終の年であり、計画の総仕上げを行う重要な年となります。このため、これまでの事業の進捗状況や成果・課題を総点検し、計画目標の実現に向けて着実な事業推進を図ってまいります。

そして、現在、令和8年度から令和17年度を計画期間とした「第6次総合計画」の策定を進めております。未来の主役となる若い世代からも意見を聞き、子どもから大人まで多くの皆様に多様な提案や意見をいただきました。今後これらの意見を参考に、未来に夢と希望の持てる計画にまとめてまいります。

今後も、市民参加・協働を基本スタンスに、将来を見据え、現在・未来を担うすべての市民の皆様が、豊かさと幸せを実感できるよう、全力投球で白井のまちづくりを進めてまいりますので、ご支援・ご協力をお願いします。

（当初予算）

次に令和7年度当初予算について申し上げます。

今年度の予算案のキャッチコピーは、「暮らしを支える 未来への架け橋予算」です。

令和7年度は、第5次総合計画後期基本計画の最終年度であり、計画の総仕上げを行う重要な年度です。

こどもの成長段階に応じた切れ目のない支援や保護者の経済的負担の軽減、災害への備えの強化など市民の暮らしを支えるとともに、少子化対策の推進や地域経済の活性化など将来を見据えた課題にも取り組み、次期総合計画への橋渡しとなる予算を編成しました。

なお、令和7年度の予算編成に当たっては、令和6年8月に予算編成方針として、

- （1）後期基本計画事業の完遂に向けた着実な実施
- （2）こどもの成長のための施策の推進
- （3）安全・安心な市民生活の確保
- （4）地域経済の活性化につながる取組の推進
- （5）将来を見据えた行財政運営の実現

の5つの基本方針を定めています。

令和7年度の一般会計当初予算の規模は、過去最大規模の238億9,139万4千円で、3つの特別会計と水道事業会計及び下水道事業会計を合わせた総予算額の規模は、381億568万3千円となり、前年度比6.7%の増となりました。

また、市税収入におきましても、個人市民税において、課税対象となる所得額が増加していること、固定資産税において、企業の設備投資による償却資産の増を見込んだことなどから、過去最大規模となりました。

それでは、令和7年度予算案における主な事業について、基本方針の順にご説明いたします。

まずは、基本方針の1つ目後期基本計画事業の完遂に向けた着実な実施のための主な事業についてご説明します。

1つ目は、工業団地アクセス道路整備事業です。白井工業団地と国道16号を結ぶ幹線道路の整備で、令和9年4月の供用開始を目指して取り組みます。令和7年度は、国の補助金を活用し、道路拡幅工事、農家に対する耕作補償を行うほか、新たに起点、終点部分になる交差点の改良工事に着手するため、5億4,062万3千円を計上しています。

2つ目は、白井市民プール維持保全工事で、平成3年7月にオープンした市民プールについて、プール管理棟とプールサイドの維持保全工事を実施するため、1億7,248万円を計上しています。

続きまして、基本方針の2つ目、こどもの成長のための施策の推進についてご説明します。

1つ目は、学校給食費の負担軽減になります。保護者の負担軽減を図るため、令和7年4月から新たに中学生の給食費を無償化します。

また、引き続き小学生の給食費の値上げ分の公費負担、第3子以降の給食費の無償化を行うこととして、影響額として、1億5,160万3千円を見込んでいます。

2つ目は、少子化対策の推進です。

令和6年度から、少子化対策の一環として、妊娠を希望する市民に葉酸サプリを配布しており、令和7年度も引き続き実施するとともに、市内に住居を持つ、新たに結婚した市民に新生活への支援として補助金を交付するため、合計1,059万8千円を計上しています。

なお、企画政策課に新たに「若い世代定住促進班」を新設し、人口減少対策を総括し、結婚支援などの少子化対策や定住支援の取組を強化してまいります。

3つ目は、子育て世帯訪問支援になります。

子育て等に困難を抱える世帯やヤングケアラー等がいる家庭に、専門の研修を受けた訪問支援員が訪問し、話しを伺うとともに、家事・育児等の支援を行うため、103万1千円を計上しています。

4つ目は、新たなこども・若者の居場所・遊び場として、白井総合公園にバスケットゴールを整備するため、288万2千円を計上しています。

なお、この事業は、第6次総合計画の策定にあたって実施した子どもから若者を対象としたワークショップ「しろいの未来作戦会議」で提案を受け、実施するものです。

5つ目は、原爆投下から80年を迎えるにあたり、市内の中学生が被爆地を訪問し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び、現地で学んだこと、平和の大切さを後世に伝えるため、平和に関する体験学習として広島市へ平和使節団を派遣するため、220万円を計上しています。

続きまして、基本方針の3つ目、安全・安心な市民生活の確保についてご説明します。

市民生活の安全・安心を確保するため、ハード面の対策だけでなく、ソフト面の取組についても予算化しています。

市は、災害に強い地盤、立地にありますが、今年の「能登半島地震」のように想定を超える大規模な自然災害が日本各地で発生しています。そのため、大規模な災害への備えを強化するため、災害時の医療救護活動に必要なトリアージポストを設置するためのテント、発電機などの資機材を整備します。

また、諸般の報告でもお話ししましたが、今年2月に白井総合公園で白井市初となる総合防災訓練を実施し、国、県などの機関、地域と緊密に連携して、防災対策の強化を図ったところですが、令和7年度も引き続き、総合防災訓練を実施するため、572万8千円を計上しています。

2つ目として、令和6年度から引き続き防災行政無線の通信方法をデジタル化とする更新費用、3億7,644万4千円を計上しており、令和7年度中の更新完了を目指しています。

3つ目は、受動喫煙の防止です。

今議会に「路上等における受動喫煙の防止に関する条例」を提出していますが、同条例で受動喫煙防止重点区域に指定する白井駅、西白井駅周辺に分煙施設を設置し、重点区域の巡回などを行うため、966万8千円を計上しています。

4つ目は、犯罪被害者等の支援です。

闇バイトなどによる犯罪が発生している中、迅速に被害者に寄り添う支援を行う

ため、「犯罪被害者等支援条例」を今議会に提出しており、犯罪被害者等が直面する問題について相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等を行うとともに、対象者に対し、新たに見舞金等を支給するため、67万円を計上しています。

5つ目は、ヤード対策の強化です。

千葉県では、令和6年から金属スクラップヤード等規制条例を制定し、許可制を導入しました。また、令和5年10月には、市内のプラスチック加工会社の廃材置き場で火災が発生し、鎮火まで5時間弱かかる大きな火災となりました。

このようなことを踏まえ、これまで市職員のみで取り組んできたヤード対策について、新たに専門性を有する人材を雇用し、体制強化を図ります。

続きまして、基本方針の4つ目、地域経済の活性化につながる取組の推進についてご説明いたします。

1つ目は、担い手不足が課題という現状において、令和6年度から将来の農業、商業、工業など、白井市の産業の基本的な方針を決める新たな産業振興ビジョンの策定を進めており、令和7年度の策定完了に向け、432万3千円を計上しています。

2つ目は、しろいの梨のブランド化です。

しろいの梨は100年以上の歴史があり、全国有数の梨の生産地です。しろいの梨のPR活動を行い、ブランド強化を図るとともに国内での販路、消費の拡大を図るため、136万円を計上しています。

3つ目は、千葉ニュータウンの入居開始から、約半世紀を迎え、駅周辺地域の活性化を図るため白井・西白井駅周辺地域の特性に応じた駅周辺のビジョンを検討するとともに先進地を視察し、ビジョンの検討に生かすため、461万8千円を計上しています。

最後に、基本方針5つ目の「将来を見据えた行財政運営の実現」のための主な事業についてご説明します。

令和7年度当初予算では、自主財源の確保に向け、税の徴収率の向上やふるさと納税制度の活用、企業誘致の取組を引き続き強化していきます。

また、令和5年10月に策定した「白井市DX推進指針」に基づき、市民サービスの向上を図るため、eLTAXを活用した公金収納や図書館システムの更新などを行うほか、市役所の業務効率を改善するため、電子決裁、人事評価システムの導

入に、また、教職員の負担軽減のため、中学校の採点システムの導入などに取り組み、DXを推進します。

また、2050年ゼロカーボンシティ実現に向けて、現時点で目標達成に必要な温室効果ガス削減量分のカーボンオフセット都市ガスを本庁舎・東庁舎、保健福祉センター、文化センターへ導入します。

このほか、社会経済情勢や費用対効果などを踏まえて、新しい視点での行政サービスの展開を図るものとして、健康増進ルームについて、現在の民間事業者への委託方式を貸付方式に変更すること、1人で移動することが困難な高齢者や障がい者に対する支援として、外出支援サービスを、福祉タクシー券の配布枚数の拡充に変更すること、南山小学校のプールの授業について、市民プールでの指導員による水泳事業へ移行いたします。

以上が、令和7年度当初予算の概要となります。